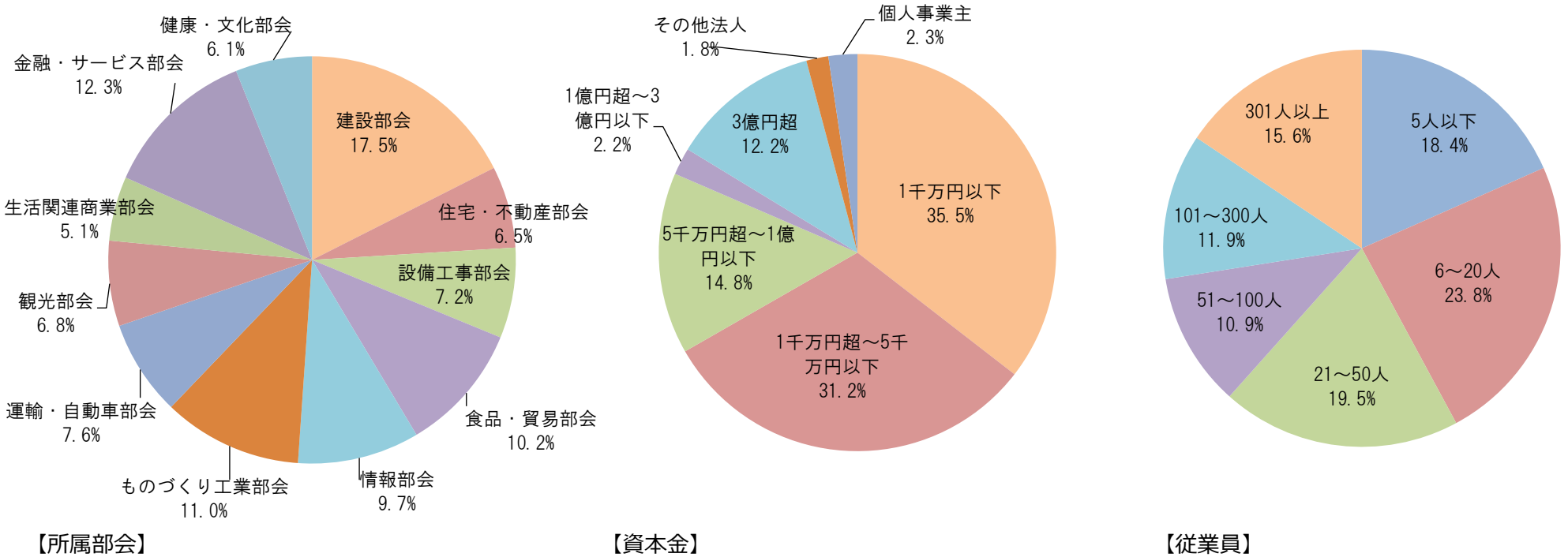




調査概要

1. 調査期間 2024年1月10日(水)～2024年1月26日(金)
2. 調査対象 札幌商工会議所 議員・部会役員 2,791社
3. 回答状況 724社（回答率25.9%）
4. 調査項目
 - ①これまでの産学連携の取組状況
 - ②今後の産学連携の取組状況
 - ③産学連携の促進のために必要なことについて

5. 回答企業属性



※【資本金】其他法人について…一般社団法人、一般財団法人、学校法人、任意団体など

①これまでの産学連携の取組状況（1）

- 「大学等と産学連携を進めている」と回答した企業は全体で21%、「産学連携に取り組んだことはない」と回答した企業は79%となった。「産学連携を進めている」と回答した企業の内訳は道内企業が16.8%となり、道外企業（支店等）は55.8%となった。【図1】
- 「大学等と産学連携を進めている」と回答した企業における連携先については、道内が55.7%、道外が44.3%となり、大学との連携が83.6%と8割強を占める一方で、「高等専門学校、高校など」については、16.4%に留まった。【図2】
- 「大学等と産学連携を進めている」と回答した企業の資本金別の連携状況について、「3億円超」が32.2%と最も高い一方で、「1千万円以下」が17.8%、「2千万円超～5千万円以下」が16.5%と続いていることから、中小企業においても産学連携の取組みを進めている様子が伺えた。【図3】
- 「大学等と産学連携を進めている」と回答した企業の従業員別の連携状況について、「301人以上」が37.8%と最も高く、次いで「101～300人」が18.3%となった。また、「5人以下」は17.1%と3番目に高い結果となった。【図4】

図1【産学連携の状況】

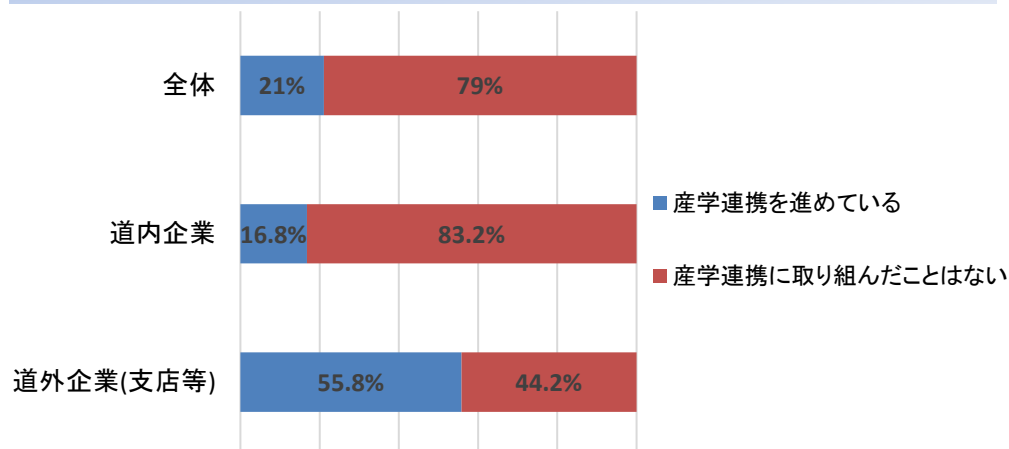


図2【産学連携の状況（道内/道外、連携先）】

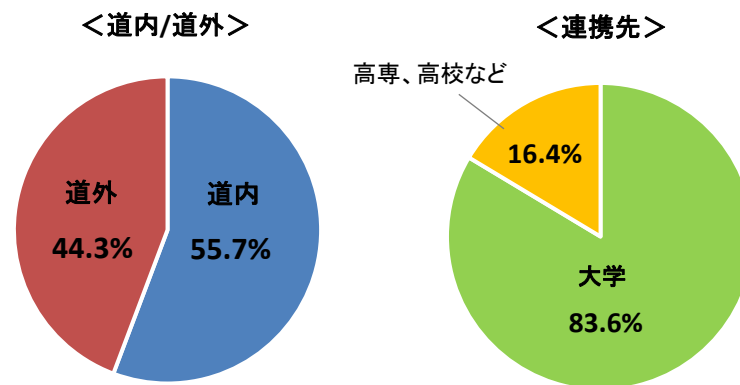
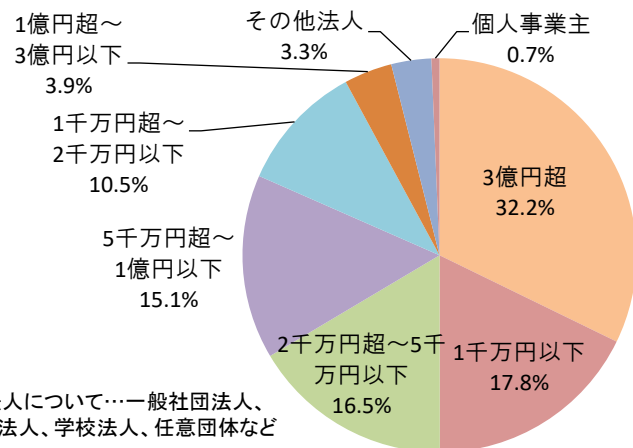
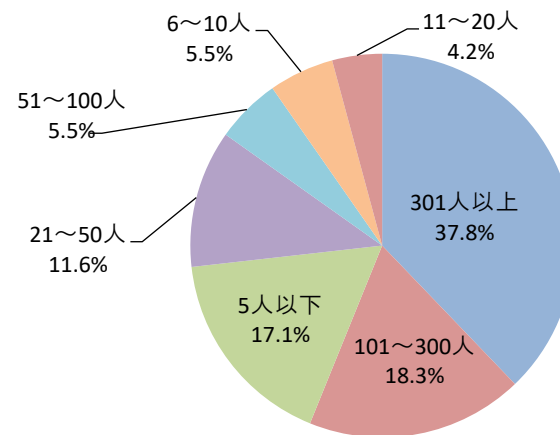


図3【産学連携を進めている企業の資本金】



※その他法人について…一般社団法人、一般財団法人、学校法人、任意団体など

図4【産学連携を進めている企業の従業員数】



①これまでの産学連携の取組状況（2）

- 2ページ目「図2【産学連携先（道内/道外）】」で「**道外**」と回答した企業の連携先は、「東京大学」、「京都大学」が4件、次いで「早稲田大学」が3件となった。【図1】 また、道外大学などと連携した企業の内訳は、「道外企業の支店、子会社等」が82.5%となった一方で、「道内企業」は17.5%に留まった。【図2】
- 2ページ目「図2【産学連携先（道内/道外）】」で「**道内**」と回答した企業の連携先は、「北海道大学」が最も多く38件となった。【図3】 道内大学などと連携した企業の内訳は、「道外企業の支店、子会社等」が18.4%に留まった一方で、「道内企業」は81.6%となり、「道内企業」は「道内大学」と連携する傾向が伺えた。【図4】

図1【産学連携先（道外）※複数回答（上位10項目）】

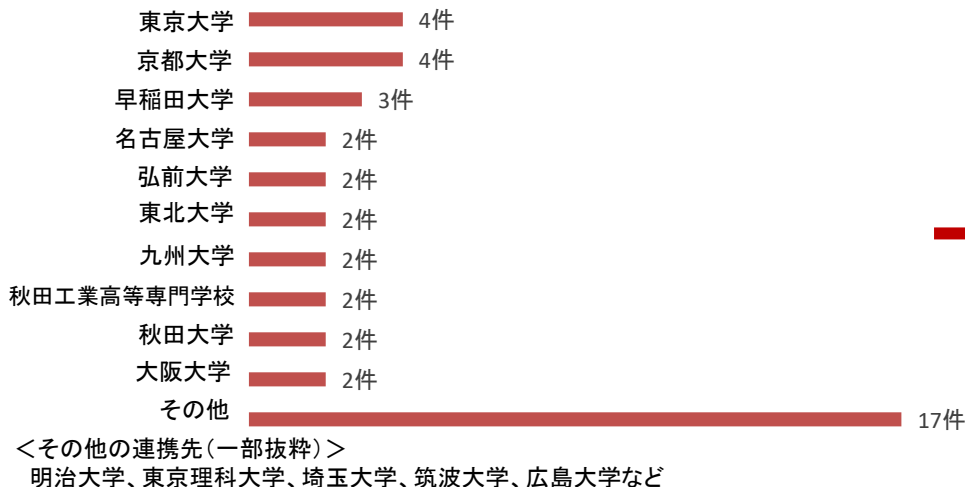


図2【産学連携先（道外）内訳】

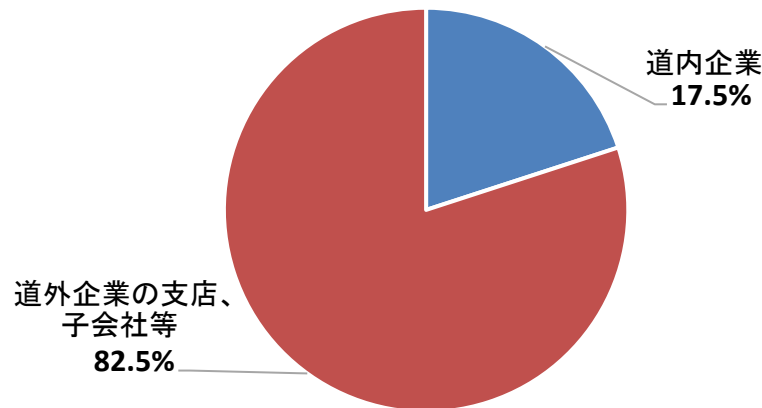


図3【産学連携先（道内）※複数回答（上位10項目）】

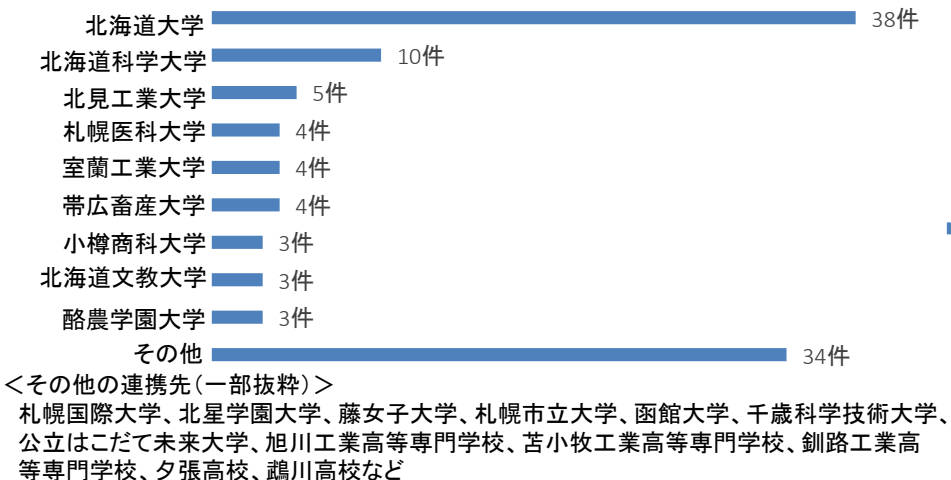
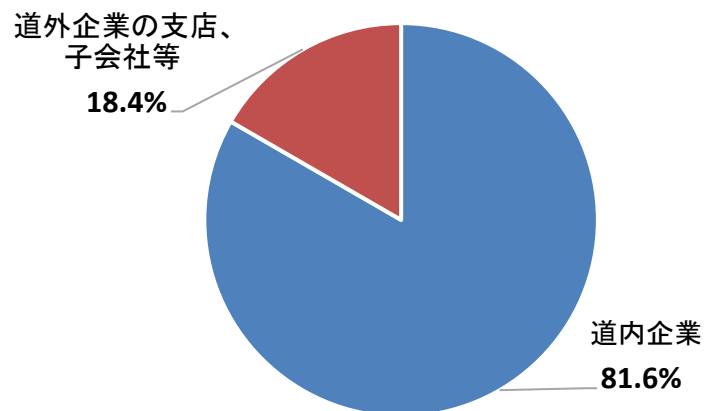


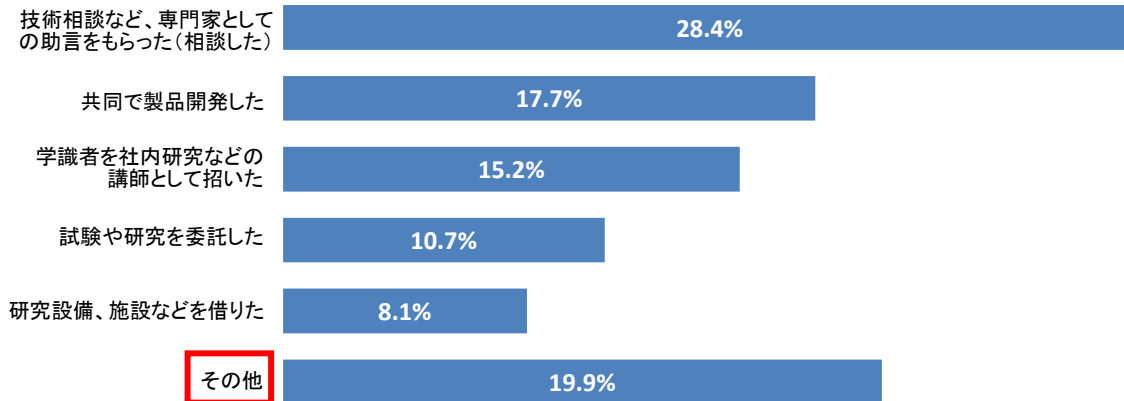
図4【産学連携先（道内）内訳】



①これまでの産学連携の取組状況（3）

- ▶ 2ページ「図1【産学連携の状況】」で「大学等と産学連携を進めている」と回答した企業における産学連携で実施した内容は、「技術相談など、専門家としての助言をもらった（相談した）」の28.4%が最も多く、「共同で製品開発した」が17.7%と続いた。【図1】
- ▶ 2ページ「図1【産学連携の状況】」で「産学連携に取り組んだことはない」と回答した企業における産学連携に取り組んでいない理由は、「必要が無いため」の67.6%が最も多く、「連携したいと思ったが、方法がわからなかった」が13.8%と続いた。【図2】

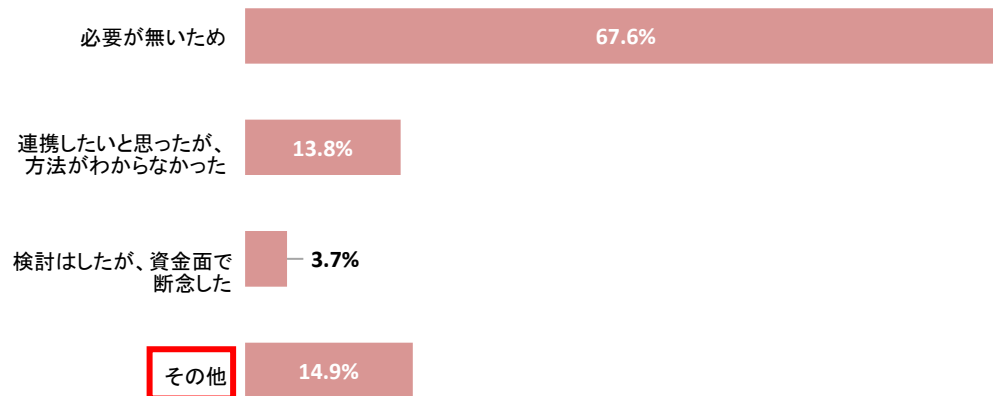
図1【実施した（実施している）産学連携の内容 ※複数回答】



＜その他の回答（一部抜粋）＞

- ・業界と共同で奨学金を運用したり、職業プログラムを開催。
- ・人材の教育や育成に関する共同事業の実施。
- ・事業運営業務を補助いただいた
- ・学生の道内定着に資する取組（道内ものづくり系大学・道内高専と道内企業との情報交換会）の実施。
- ・建設業経営のシミュレーションボードゲームの共同研究・作製。
- ・学生と連携して、健康価値のあるメニュー、献立の開発。
- ・道内水産・農業高校で収穫、栽培した食材を使用した。

図2【産学連携に取り組んでいない理由】



＜その他の回答（一部抜粋）＞

- ・産学連携についての情報や知識がない。
- ・どのような連携が出来るのか、どのような費用が発生するのがわからない。
- ・今は必要とする事業テーマを抱えていない。
- ・相談したことはあるが、その時のテーマが連携の対象にならなかった。
- ・大企業ほど潤沢な予算や知識（人材）ビジョンがない。
- ・親会社が窓口として行っている。

②今後の産学連携の取組状況、③産学連携の促進のために必要なことについて

- ▶ 今後の産学連携の意向を持つ「具体的に検討している」と「関心がある」と回答した企業の合計は32.0%となった一方で、「関心がない」と回答した企業は51.9%を占めた【図1】
- ▶ 「具体的に検討している」と「関心がある」と回答した企業の、産学連携の検討内容や関心のある事柄については、「共同研究や共同開発を行いたい」が38.1%と最も高く、次いで、「技術や研究内容に関連する相談をしたい」が31.4%となった。【図2】
- ▶ 「関心がない」と回答した企業の理由については、「大学等と連携を必要とするような、課題や業務がない」が71.3%となった。【図3】
- ▶ 産学連携の促進に必要なことについては「大学の相談窓口がわかりやすいと良い」が35.3%となり、次いで「産学連携の事例がわかると良い」が26.4%となった。【図4】

図1 【今後の産学連携の意向】

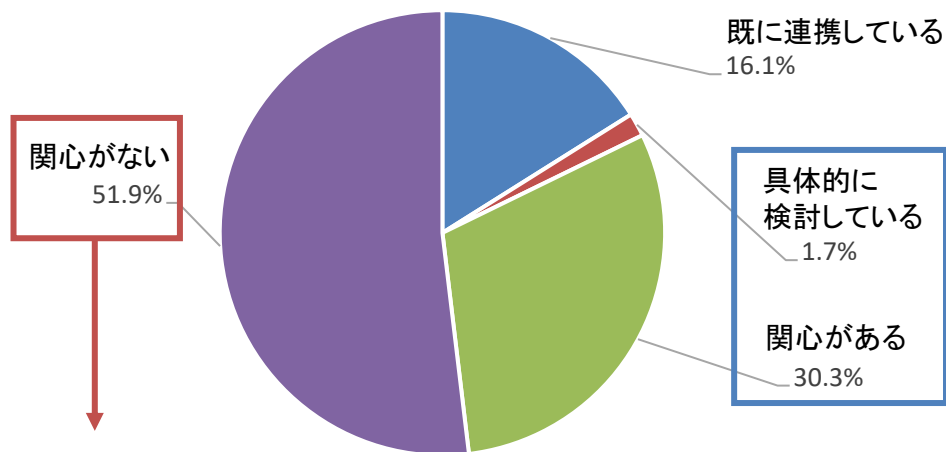


図2 【産学連携の検討内容や、関心のある事柄 ※複数回答】

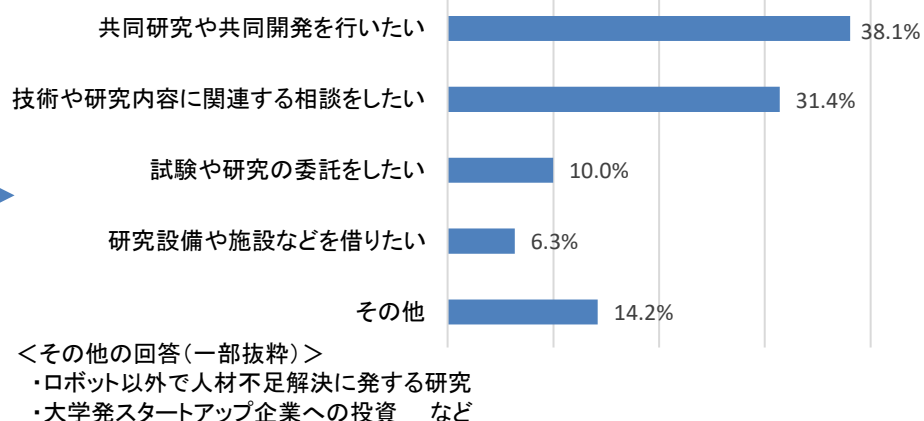
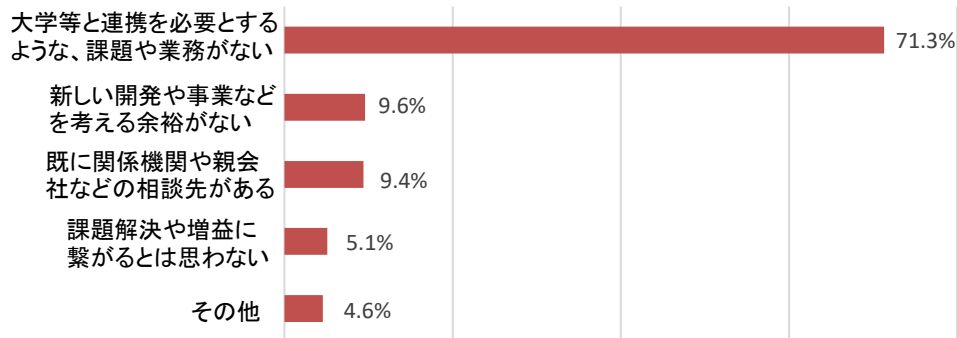


図3 【産学連携に関心がない理由】



<その他の回答(一部抜粋)>

- ・興味はあるが、業界的に産学連携が難しいと考えるため
- ・支店に裁量権限が無いため など

図4 【産学連携の促進に必要なこと ※複数回答】

